

4 年次配当科目

【科目名】保健医療福祉政策論**【担当教員】**室谷 牧子 他**【研究室】**5号館7階C709研究室**【種別】**選択・前期2単位（講義）**【講義の目的】**

人々の暮らしや健康を支える医療政策の仕組みについて理解するとともに、保健医療福祉サービスを具現化するために必要な知識、技術として社会の有りようを客観的に把握する力を養い、どのように制度化すればいいのかを学習する科目である。

【到達目標】

1. 事例や健康問題を通じて行政サービスや制度化のプロセスとその思考過程を考えられるようになる。
2. 人々の暮らしや健康を支える保健医療福祉政策の仕組みについて理解する。

【授業計画】

1. ガイダンス、保健医療福祉行政の変遷と役割 その1
2. 保健医療福祉行政の変遷と役割 その2
3. 保健医療福祉の財政と地方自治体の保健医療福祉計画①：特別講義
4. 保健医療福祉の財政と地方自治体の保健医療福祉計画②：特別講義
5. 保健医療福祉計画の実際①
6. 保健医療福祉計画の実際②
7. 事業展開の実際と評価①
8. 事業展開の実際と評価②
9. 被災地での保健活動：特別講義
10. 公衆衛生看護活動と施策化①
11. 公衆衛生看護活動と施策化②
12. 公衆衛生看護活動と施策化③
13. 公衆衛生看護活動と施策化④
14. 保健福祉制度の仕組みと保健師の活動①：特別講義
15. 保健福祉制度の仕組みと保健師の活動②：特別講義

【成績の評価】

小テスト30%、レポート20%、プレゼンテーション30%、参加・取り組み状況20%により総合的に評価する。

【自己学習】

保健医療福祉に関する行政、国および地方自治体の施策について感心をもち、日常的に新聞等に眼を通す習慣をつける。授業の展開に合わせ必要な学習と作業を計画的に行うこと。

【履修上の注意】

主体的に学習し、授業に参加すること。

私語厳禁、携帯電話は電源をOFFまたはマナーモードにする。

【テキスト】

1. 『国民衛生の動向 2015/2016』（厚生統計協会）
2. 『保健医療福祉行政論』最新保健学講座⑦（メジカルフレンド社）、野村陽子編
3. プリント配布

【参考文献】

随時提示する。

【科目名】ケアマネジメント論**【担当教員】**和田 幸子**【研究室】**5号館7階C702研究室**【種別】**選択・前期1単位（講義）**【講義の目的】**

ケアマネジメントは、利用者のニーズと社会資源をつなぐための手法である。ケアマネジメントは高齢者のみを対象に行うものではないが、超高齢社会にある現在では、疾患や障害をもつ高齢者にとって生活を支える福祉サービス利用は不可欠となってきた。そのような背景をふまえてケアマネジメントの意義、概念、基本的な手法を理解する。

【到達目標】

1. ケアマネジメントの過程と機能を理解する。
2. 介護保険におけるケアプランの果たす役割を理解する。
3. ケアマネジメントを行うために必要な能力を検討する。

【授業計画】

1. ケアマネジメントの概念
2. ケアマネジメントの構成要素・過程
3. 介護保険におけるケアマネジメント
4. ケアプラン作成の実際（事例）
5. ケアマネージャーが果たす役割
6. 多職種参加を想定したカンファレンス（演習）
7. ケアマネジメントに必要な能力

【成績の評価】

レポート80%・平常点20%にて評価する。

【自己学習】

介護保険制度について学習しておく。

【履修上の注意】

グループでの意見交換やロールプレイによる演習などを行うため、授業への積極的な参加を期待する。

【テキスト】

プリント配布。

【参考文献】

授業の中で適宜紹介する。

【科目名】公衆衛生看護展開論

【担当教員】平尾 恭子・室谷 牧子

【研究室】5号館7階 C711 研究室 (平尾)・C709 研究室 (室谷)

【種別】選択・前期1単位 (演習)

【講義の目的】

地域診断 (情報収集・情報の分析・アセスメント) の目的・方法について学び、実習地域の健康課題を明確化することができる。また、乳幼児の家庭訪問および健診の目的・方法、保健師の役割について学ぶとともに、ロールプレイを実施・評価し、基本的な保健指導技術を習得することができる。

【到達目標】

1. 地域診断の目的・方法を理解する。
2. 地域診断に必要な情報を収集することができる。
3. 収集した情報を分析・アセスメントし、地域の健康課題を明確化できる。
4. 新生児訪問の目的・方法、保健師の役割について理解する。
5. 紙上事例を通して個人・家族の健康課題を明確化し、家庭訪問による支援計画を立案できる。
6. ロールプレイにより家庭訪問における支援を実施し、評価できる。
7. 乳幼児健診の目的・方法、保健師の役割について理解する。
8. 1歳6か月児健診の問診・健康相談計画を立案できる。
9. ロールプレイにより1歳6か月児健診の問診および健康相談を実施し、評価できる。
10. 家庭訪問および1歳6か月児健診における問診・健康相談を通して基本的な保健指導技術を習得することができる。

【授業計画】

1. ガイダンス、地域診断の目的・方法
2. 地域診断① (情報収集および情報の加工①)
3. 地域診断② (情報収集および情報の加工②)
4. 地域診断③ (情報収集および情報の加工③)
5. 地域診断④ (情報の分析・アセスメント①)
6. 地域診断⑤ (情報の分析・アセスメント②)
7. 地域診断⑥ (情報の分析・アセスメント③)
8. 地域診断⑦ (健康課題の明確化)
9. 地域診断⑧ (地域診断および支援計画の発表)
10. 新生児訪問① (目的・方法、保健師の役割)
11. 新生児訪問② (家庭訪問計画の立案)
12. 新生児訪問③ (支援の実施・評価)
13. 1歳6か月児健診① (目的・方法、保健師の役割)
14. 1歳6か月児健診② (問診および健康相談の計画立案)
15. 1歳6か月児健診③ (支援の実施・評価)

【成績の評価】

演習による成果物 30%、記録・レポート 30%、平常点 40%

【自己学習】

・地域診断、家庭訪問、乳幼児健診、保健指導等について復習しておくこと。

【履修上の注意】

・グループでの演習が中心となるためメンバー同士で協力し合い、主体的に計画的に演習をすすめること。
・履修は保健師コース選択者に限る。

【テキスト】

1. 「第4版 公衆衛生看護学.jp」(インターメディカル) 荒賀直子他著
2. 「国民衛生の動向 2015/2016」(厚生統計協会)
3. プリント配布

【参考文献】

随時提示するので、主体的に学習すること。

【科目名】公衆衛生看護学実習Ⅱ

【担当教員】平尾 恭子・室谷 牧子

【研究室】5号館7階 C711 研究室 (平尾)・C709 研究室 (室谷)

【種別】選択・通年4単位 (実習)

【講義の目的】

地域における保健活動および保健・医療・福祉の連携、住民との協働活動、健康危機管理について学び、個人・家族・集団・地域に対する保健師の支援方法・支援技術および保健師の役割を理解するとともに、住民の主体的な健康課題への取り組みを支援するための基礎的能力を養う。また、児童・生徒に対する学校保健活動の実際を知り、養護教諭の役割を理解するとともに、学校と保健所・保健センターとの連携について考えることができる。

【到達目標】

1. 地域診断により地域の健康課題を明らかにし、必要な支援について考えることができる。
2. 地域住民の健康づくりおよび健康危機管理における保健・福祉サービスの実際を知り、保健所・保健センターの機能および役割を理解できる。
3. 個人・家族・集団・地域の健康課題を解決するための保健師の支援方法および支援技術を理解できる。
4. 家庭訪問および健康教育を通して、住民が主体的に健康課題を解決するための基本的保健指導技術を習得できる。
5. 関係機関・職種の連携および住民との協働活動の必要性を理解し、地域ケアシステム構築における保健師の役割について考えることができる。
6. 児童・生徒に対する学校保健活動の実際を知り、養護教諭の役割を理解するとともに、学校と保健所・保健センターとの連携について考えることができる。

【授業計画】

- 1.
 - 2.
 - 3.
 - 4.
 - 5.
 - 6.
 - 7.
 - 8.
 - 9.
 - 10.
 - 11.
 - 12.
 - 13.
 - 14.
 - 15.
- } 実習要項参照

【成績の評価】

実習目標到達度、実習記録、レポート、事前学習、実習態度等により総合的に評価する。

【自己学習】

実習要項に示された事前学習を必ず行う。

【履修上の注意】

各自主体的に学習するとともにメンバー間で協力しあうこと。

【テキスト】

1. 「第3版 公衆衛生看護学.jp」(インターメディカル) 荒賀直子他著
2. 「国民衛生の動向 2015/2016」(厚生統計協会)
3. 「地域保健ノート 2016」(大阪公衆衛生協会)

その他、公衆衛生看護学に関連する授業での配布資料。

【参考図書】

適宜、紹介する。

【科目名】老年看護学実習Ⅱ**【担当教員】**岩井 恵子・原 希代・吉村 牧子**【研究室】**5号館7階C701研究室(岩井)**【種別】**必修・前期2単位(実習)**【講義の目的】**

入院を必要とする高齢者の疾病や加齢による身体的・精神的・社会的変化が生活に及ぼす影響を理解し、必要な看護を見出し実践する。また高齢者と家族をとりまく保健・医療・福祉との連携・協働の必要性と、その中での看護の役割を理解する。

【到達目標】

1. 加齢や疾病による身体的・精神的・社会的変化が理解できる。
2. 加齢や疾病が生活やライフスタイルに及ぼす影響が理解できる。
3. 看護問題を見出すことができる。
4. 看護計画を立案し、実践することができる。
5. 実践を評価することができる。
6. 退院後の生活を把握し、必要な援助が理解できる。
7. 高齢者と家族をとりまく保健・医療・福祉の役割と、連携・協働の方法を理解する。

【授業計画】

1. 臨地実習(オリエンテーション、患者紹介)
2. 臨地実習(患者の情報収集)
3. 臨地実習(アセスメント)
4. 臨地実習(アセスメント)
5. 看護過程の展開、個別指導
6. 臨地実習(計画した看護の実践)
7. 臨地実習(計画した看護の実践・フィードバック)
8. 臨地実習(実践した看護の振り返り)
9. 受け持ち患者の看護のまとめ
10. 退院支援についてのグループワーク、発表
☆ 5.9.10は学内で行う。

【成績の評価】

実習評価表(オリエンテーションで配布)にて評価する。

【自己学習】

関連する授業の復習を行い、臨地実習に臨む。
自己学習ノートの提出を求めることもある。

【履修上の注意】

- * 実習要項をよく読んで(オリエンテーションで配布)臨む。
- * 臨地実習では受け持ち利用者の看護を中心に(看護過程の展開)行う。
- * グループ(オリエンテーションで発表)で行動する。

【テキスト】

関連する授業で使用したテキストを参照する。

【参考文献】

個別指導、グループ指導時に適宜紹介する。

【科目名】災害・国際看護論**【担当教員】**高岸 壽美**【研究室】**診療・研究棟4階415研究室**【種別】**必修・後期1単位(講義)**【講義の目的】**

1. 災害看護に関心を持ち実践で使える知識を得る
2. 国際的視野にたつて、人々の健康について考えることができる。

【到達目標】

1.
 - 1) 災害看護に必要な知識・技術に加え、被災者の生活の側面がイメージでき、生活者としての被災者にどのような看護が必要なのか、また今後の課題は何かを考える。
 - 2) 災害が人々に及ぼす影響が理解でき、災害看護の特徴が理解できる。
 - 3) 災害サイクルに沿った看護活動の実際がイメージすることができる。看護の方向性が考えられる。
 - 4) 災害への備えとシステムについて理解できる。
 - 5) 学内で地震に遭遇した時の行動をイメージできる。
2.
 - 1) 国際看護の概念や変遷が理解できる。
 - 2) 諸外国の看護の動向がわかる。
 - 3) 国際看護の役割がわかる。
 - 4) 国際看護の実際がわかる。

【授業計画】

1. 災害看護学について
災害サイクルからみる災害看護活動
2. 災害サイクルからみる災害看護活動
3. 災害看護に必要な知識・技術
4. 災害看護活動の実際・災害時のこころのケア
5. 災害時のこころのケア
6. 国際看護学について(グローバルヘルス・開発と健康など)
7. 国際救援活動の実際

【成績の評価】

筆記試験90%、
授業参加度(ミニットペーパー提出、討議)10%

【自己学習】

国内外での災害の発生状況やその被災地の人々の暮らし、被災地の支援活動に関するニュースを把握する。
自分自身の防災対策を考える。

【履修上の注意】**【テキスト】**

「系統看護学講座 看護の統合と実践(3)災害看護学・国際看護学」(医学書院)日本赤十字社看護部編
プリントを配布することもある。

【参考文献】

【科目名】臨床技術実践論**【担当教員】**中納 美智保・辻 幸代・高木 みどり・
松下 直子・山根木 貴美代**【研究室】**5号館7階C708研究室(中納)**【種別】**必修・後期1単位(演習)**【講義の目的】**

臨床で必要とされる看護技術の中で侵襲的な技術である注射、点滴静脈内注射、採血について学習する。さらにこれまで学習した知識や技術を統合しながら、患者に安全・安楽に看護技術が実施できる力を養う。演習を通して看護実践を支える倫理観を高める。

【到達目標】

1. 注射、点滴静脈内注射、採血についての知識が想起できる。
2. 注射、点滴静脈内注射、採血の基本的技術を安全に実施できる。
3. 技術を実践する際に必要な医療事故対策が実施できる。
4. 演習を通して看護実践を支える倫理的な態度や行動がとれる。

【授業計画】

1. ガイダンス、医療安全および与薬について
2. 注射・点滴静脈内注射に関する技術について
3. 点滴静脈内注射に必要なME機器の取り扱い
4. 侵襲的な検査について
5. 基礎看護技術に関する知識①
6. 注射の演習(筋肉内注射)
7. 基礎看護技術に関する知識②
8. 採血の演習(注射器および真空採血管)
9. 基礎看護技術に関する知識③
10. 点滴静脈内注射に関する演習(点滴作成、翼状針での実施)
11. 基礎看護技術に関する知識④
12. 点滴静脈内注射に関する演習(点滴作成、留置針での実施)
13. 看護実践に必要な基礎看護技術の知識の統合
14. 看護実践に必要な基礎看護技術の知識の統合(演習)
15. まとめ

【成績の評価】

筆記試験90%、記録および平常点10%で評価する。

【自己学習】

既習科目内容や技術を復習しておく。さらに該当するテキストに目を通して学習内容を把握しておく。

【履修上の注意】

1. 技術の方法だけに注目するのではなく、原理・原則・根拠をしっかりと理解する。
2. 演習を主体として授業を展開するので、演習前・演習後の記録がある。
3. 演習は臨床場面を想定して行うので看護者としての心構えを持って臨む。

【テキスト】

1. 「基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ」(メヂカルフレンド社) 深井喜代子編集
2. 「基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ」(メヂカルフレンド社) 深井喜代子編集
3. 「基礎看護学④ 臨床看護総論」(メヂカルフレンド社) 宮脇美保子編集
4. 「看護学テキストNICE 基礎看護技術」(南江堂) 香春知永編集:
(1~4はともに1・2年次に購入したもの)

【参考文献】

授業中に適宜紹介する。

【科目名】研究方法論応用**【担当教員】**辻 幸代 他看護系教員全員**【研究室】**5号館7階C707研究室(辻)**【種別】**選択・通年2単位(演習)**【講義の目的】**

看護学は実践の科学であり、さまざまな健康問題を持つ人々に寄り添い、人々の役に立つことに意味がある。今後、臨床場面で、さまざまな課題や問題に出会う。大学で学んだ知識や技術では解決できない問題にも出会うであろう。そこで、臨床の場では、「人々の役に立つ」ことができるよう、看護研究が実践されている。

この科目の目的は、看護専門職として看護学の発展に寄与できるように、自らが実践を見つめなおし、問題を解決できるための基礎的な研究能力を養うことである。

【到達目標】

1. 看護における疑問や課題を明確にする。
2. 課題に対する文献を検索し、活用することの重要性が理解できる。
3. 課題にふさわしい研究方法を考えることができる。
4. 研究における倫理的配慮について述べるができる。
5. 研究計画書を作成することができる。

【授業計画】

- | | |
|-----------------|-----------------|
| 1. 授業ガイダンス | 16. 各指導教員のもとで学習 |
| 2. 各指導教員のもとで学習 | 17. 各指導教員のもとで学習 |
| 3. 各指導教員のもとで学習 | 18. 各指導教員のもとで学習 |
| 4. 各指導教員のもとで学習 | 19. 各指導教員のもとで学習 |
| 5. 各指導教員のもとで学習 | 20. 各指導教員のもとで学習 |
| 6. 各指導教員のもとで学習 | 21. 各指導教員のもとで学習 |
| 7. 各指導教員のもとで学習 | 22. 各指導教員のもとで学習 |
| 8. 各指導教員のもとで学習 | 23. 各指導教員のもとで学習 |
| 9. 各指導教員のもとで学習 | 24. 各指導教員のもとで学習 |
| 10. 各指導教員のもとで学習 | 25. 各指導教員のもとで学習 |
| 11. 各指導教員のもとで学習 | 26. 各指導教員のもとで学習 |
| 12. 各指導教員のもとで学習 | 27. 各指導教員のもとで学習 |
| 13. 各指導教員のもとで学習 | 28. 各指導教員のもとで学習 |
| 14. 各指導教員のもとで学習 | 29. 各指導教員のもとで学習 |
| 15. 各指導教員のもとで学習 | 30. 各指導教員のもとで学習 |

【成績の評価】

レポート70%、平常点30%で評価する。

【自己学習】

1. 既習の科目や実習をふり返り、疑問や課題を明確にする。
2. 授業には事前学習をして臨む。

【履修上の注意】

1. 授業は各担当教員にわかれてゼミ形式で行う
2. 各グループメンバーは互いに協力して学習をすすめる
3. 担当教員との連絡・相談を十分に行う
4. レポートの形式などは掲示するので確認して提出する。

【テキスト】

指定しない

【参考文献】

授業の中で適宜紹介する

【科目名】 チーム医療論

【担当教員】 中納 美智保

【研究室】 5号館7階 C708 研究室

【種別】 選択・後期1単位 (講義)

【講義の目的】

患者への安全で効果的な医療提供には、保健・医療・福祉専門職による「連携と協同によるアプローチ」が必要不可欠になってきている。チーム医療の必要性を理解し、チーム医療で貢献できる看護師の役割について考える。

【到達目標】

1. チーム医療の重要性について説明することができる。
2. チーム医療における看護職の役割を説明できる。
3. チーム医療における看護職としての自分の課題や役割について述べることができる。

【授業計画】

1. チーム医療とは何か、チーム医療の必要性
2. 看護組織におけるチーム医療について
3. チーム医療での倫理的ジレンマ
4. チーム医療のキーパーソンとしての看護職の役割
5. チーム医療で活躍する看護職の実例
6. 医療安全管理チームで行う危険予知トレーニング (KYT)
7. まとめ

【成績の評価】

筆記試験 90%・平常点 10%

【自己学習】

今までの臨地実習を想起し、有意義なディスカッションが出来るように準備する。

【履修上の注意】

自分の意見を伝える共に他者の意見を聞き、考えることがチーム医療の基本となる。この科目はディスカッションを取り入れて授業を行う。

【テキスト】

プリント

【参考文献】

授業中に適宜、紹介する

【科目名】 コーチング論

【担当教員】 高橋 美佐

【研究室】

【種別】 選択・後期1単位 (講義)

【講義の目的】

対象者の生活習慣病を予防するため、本人の行動変容を促すコーチングの基本を体験的に理解することが目的です。

皆さんはコーチングにどんなイメージを持っているでしょうか？世の中には「こんな風に質問したら、相手が動く」と「人を動かす質問集」のように思っている人もいます。医療現場ではそのようなコーチングは使えません。また、決まったセリフをマニュアル通りに言うものでもありません。相手によって柔軟に対応することが求められます。「そんなの難しい!」と感じるかも知れませんが、

いいニュースがあります。だれでもコーチングはできます。必要なのは、あなたの五感と知性をフル活用して、実際にやってみることです。そこには「正解」や「間違い」はありません。あなたが自分と相手に正直に向き合い、気づきを重ねていくことで、コーチングができるようになります。

人と話するのが好きな人も苦手な人も、共に楽しめる授業だと思います。安心して、好奇心をもって出席してください。

【到達目標】

1. 参加者のできるだけ多くと知り合う。
2. 自分の傾向を知り、他人との違いを受け入れられるようになる
3. 自分のモチベーションのポイントを理解し、人生の目標設定をする
4. 自分の人生目標を達成するため、必要な生活習慣をデザインする。
5. 2~4の体験をベースに、対象者の、生活習慣上の行動変容を促すコーチングを試みる。

【授業計画】

1. 講座の全体像：この講座のルート・マップを紹介
コーチングの基本の復習：「使えるコーチング」に必要なものは何？
2. 信頼関係を築く：対人ストレスを減らし、信頼関係をつくるコツ
3. モチベーションを上げる：承認する・価値を知る
4. ゴール設定：夢と目標を明確にする
5. 小さなゴール設定：自分の夢のために、備えておきたい生活習慣は？
6. レッツ・コーチング：お互いの夢を応援しよう
7. 振り返りコーチング：やってみてどうだったか。これからの行動計画

【成績の評価】

毎回の授業の成果物 40%・グループワークの取り組み 30%、レポート 30%

【自己学習】

健康教育論 (2年次後期) の復習をしておくこと

【履修上の注意】

参加型の講義です。主体的に学習に取り組んでください。特に指示するとき以外は携帯・スマホの電源は切ってください。

【テキスト】

(適宜プリント配布)

【参考文献】

もしもウサギにコーチがいたら (伊藤守)・偏愛マップ (斎藤孝)・夢を実現する宝地図 (望月俊孝)・「ふつうの人」が一瞬で「できる人」に変わるシンプルな習慣 (吉田典生)

【科目名】総合看護学実習

【担当教員】看護系教員全員

【研究室】

【種別】必修・前期2単位（実習）

【講義の目的】

講義・演習・実習で学んだ看護を振り返り、自らの課題を明確にし、関心の深い分野において主体的・自律的に看護の専門性を深め、看護実践能力を高める。

【到達目標】

1. 既習の知識・技術をもとに主体的・自律的に実習に取り組むことができる。
2. 看護の一員として責任と倫理に基づいた行動ができる。
3. 保健・医療・福祉に携わるチームと人々と建設的な人間関係を築くことができる。
4. 実習を総合的に評価し、自己の看護観を深めることができる。

【授業計画】

1. 授業ガイダンス

2. 総合看護学実習要項参照

3.

4.

5.

6.

7.

8.

9.

10.

11.

12.

13.

14.

15.

【成績の評価】

実習計画の立案プロセス、実習への取り組み、実習記録、発表会、レポートなどを総合的に評価する。

【自己学習】

1. 自己の実習課題や興味・関心を明確にする。
2. 何を学びたいかを明確にし、事前学習を十分に行い、実習に臨む。

【履修上の注意】

1. 関心のある分野について事前の希望調査を行い、分野を決定する。
2. 総合看護学実習要項だけでなく、看護学実習要綱を再度熟読する。

【テキスト】

指定しない

【参考文献】

授業の中で適宜紹介する